



高校生の人権広報誌

# “Freedom” 創刊第2号

2009年10月16日発行

編集 “Freedom” 編集スタッフ

発行 奈良県高等学校人権教育研究会

## 高校生がつくる人権広報誌 “Freedom” 創刊第2号も充実！



### 水平社博物館を訪ねて ～ 部落問題と出会った

七月十一日に行われた、高解研の夏期研修会に参加した、添上高校のスタッフが、参加レポートを寄稿してくれました。

七月十一日、奈良県内の高校生が集まり、人権について考え合う高解研で、奈良県御所市柏原にある水平社博物館へ、部落問題についてより一層詳しく学ぶために見学に行きました。

水平社とは、一九二二年、被差別部落の地位向上と、人間の尊厳の確立を目的として創立された団体のことです。西光万吉、阪本清一郎を中心とし結成され、京都で開かれた創立大会には全国から二千人あまりの代表者が参加しました。そして、その告文として発せられた水平社宣言の締めの一文である、「人の世に熱あれ、人間に光あれ」とうたい上げられているように、人々の心に熱や光のように希望として広がり、全国水平社として各地へと拡大していったのです。

水平社博物館はその発祥の地であり、西光万吉の故郷である御所市柏原に開館された、水平社運動に関する専門博物館です。

建物は二階建てで一階ロビーの「人権ふるさとマップ」では、水平社創立に奔走した、阪本清一郎たちの活躍



や、水平社活動の先がけとなった、村の親睦団体「燕会」の活動、水平社運動が生み出された柏原の地域が分かりやすい映像と地図で紹介されています。二階の展示室では、阪本清一郎の「回想録」がプロローグとして音声で流れてきます。

展示では、柏原の経済力を支えた膠(にかわ)産業と差別との闘いの歴史を紹介した「雲間の曙光」から始まり、大和同志会の結成、燕会の活動を見ることが出来る「全国水平社創立前夜」が展示されています。フアンタビューシアターでは、一九二二年三月三日、京都の岡崎公会堂での全国水平社創立大会を再現した映像が放映されていて、まるでその当時に自分が存在していたように感じ、平等を願った人々の熱い思いが伝わってきます。そして創立から戦時期

までの全国水平社の活動をテーマにした「全国水平社の展開」、つづいて全国水平社や奈良県水平社の活動家運動の支援をした人を紹介していること、多くの人々がこの水平社創立に関わっていたことが分かります。エピソードは、人権学習ができる参加体験コーナーになっています。楽しみながら学ぶことができます。また、特別展示室では、年一回、同和問題をはじめとする様々な人権



博物館前にある西光寺  
(西光万吉の生家)も見学

課題に関する特別展・企画展が開催されています。今年の五月一日からは、牛や豚などの食肉文化や、革製品について等、部落と関係のある産業が紹介されていました(八月末で終了)。

一緒に高解研で博物館に行った人にその感想を聞いてみると、実際に見学して違う考えを持った「いろんなことを知れた」など、水平社博物館を通してより一層部落問題が身近な課題だと改めて実感できたという声があり、また柏原のように川をはさんで部落が部落でないかを区別されてしまう事に疑問を抱いた人もいたようです。他にも「もっと詳しく学びたい」など、今後の部落問題について意欲的に感想を述べてくれた高校生もいました。

差別は簡単にはなくなりませんが、けれど、いつかはそれらの問題をなくしていくかなければなりません。一人一人が人権意識を高め、人間の尊厳と平等を考えていったら、人々の中にある差別の心は少しずつなくなっていくんじゃないでしょうか。もし部落問題に興味を持ったら水平社博物館に行ってみてください。水平社博物館は、差別のない未来を願い闘った人々の熱い思いを感じられる場所です。

### コラム イジメについて



私の学校ではイジメをしている人を見たことがありません。そもそもどこまでがイジメという基準が私にはわからないので、その事についてははっきりとは分らないです。だけど、想像することだけは出来ます。例えば自分が何かを口に出して話したときにクラスの人たちがクスクス笑ったりするととても悲しい気持ちになります。自分だけが「間違い」と言われているようでそれはとても悲しい気持ちになります。学校や職場ではイジメという行為が起きることが多いです。

私の考えですが、イジメが起きるのは一つのクラスの集団の中で、一人でも少しみんなとは違う人が集団の中にいたら、否定し拒絶することによってイジメが起きるんじゃないかと思っています。

他人を認めるのはとても怖い。集団というグループの中でも同じで自分以外の他者を認められず相手を傷つけてイジメが起きるとするのが私の考えです。現代の人は素直な気持ちや純粋な気持ちが衰えてきている傾向が見られます。相手を思い慈しむ心があれば世の中に存在している「イジメ」は減ることだと思います。

私は、他者を差別していい人間なんて一人もいないと思いますし、誰もが愛される権利をもって生まれてきています。ただ、イジメを行う人はその愛が十分に与えられていなくて、ただ愛してくれるだけで良いのに、その願いさえも叶わないとそんな気持ちを持った人がイジメをすると思います。

私が思うに、この世界には愛情が足りなくて「無償の愛」を与える親でさえも、最近ではきちんと愛を与えられない親も少なくないようですから、まずは愛を与えることが一番最初のスタートだと思います。

## あなたにもできる！大きな支援！

### ユニセフ募金の支援先などについて紹介します

ユニセフ（国連児童基金）は、すべての子どもたちの権利が守られる世界を実現するために活動する組織です。世界各地でのユニセフ活動は、世界中の人々の募金に支えられています。ユニセフ募金は大きく分けて三つあります。

#### 1. 「マンスリーサポート・プログラム」

キャッチコピーは、「毎月協力する」。一定額（額は自由に決められます）を金融機関（郵便口座含む）から、毎月自動引き落としのかたちで募金するものです。子どもたちの成長を守るユニセフの活動は長期にわたるものです。こうした継続的な募金は、ユニセフ活動を支える大きな力になっています。

#### 2. 「ユニセフ募金」

キャッチコピーは、「今回協力する」。駅前やコンビニでの募金活動、ユニセフのホームページなどで、私たちにはもっともなじみのある募金です。ユニセフの活動は、保健、栄養、教育、水と衛生、子どもの保護などを目的に世界 150 以上の国と地域で行われています。こうした活動を支える、大切な募金です。

#### 3. 「緊急募金」「分野・地域指定募金」

「緊急募金」とは、紛争や自然災害などの緊急事態から子どもと家庭を守るための募金で、支援先を選んで募金することができます。アフガニスタンなどの紛争地域や、昨年度の中国四川大地震などがその支援対象です。「分野・地域指定募金」は、特定の目的のための募金です。砂漠化がすすむアフリカの「ブルキナファソ衛生」、「子どもとエイズ」などがあります。

世界には、今でも紛争や自然災害などで苦しんでいる人々が数多くいます。ユニセフ募金では、そういう苦しんでいる人々を支援しています。少しの額でも、多くの人々を救うことができるユニセフ募金、皆さんも協力してみませんか。

日本ユニセフ協会ホームページ <http://www.unicef.or.jp/>

は日本手話で、成人ろう者の二つあるということを知りました。一つは日本手話で、よく使われている手話は二つあるという



一人芝居を演じる太田さん

二つの表現の違いを知ってもらいたいということでした。ろう学校の演劇では音声がなく役者が日本手話や身振りで演技をし、字幕パネルで内容をより分かるよう

奈良県立ろう学校の演劇部を訪問させていただきました。高等部一年生の太田明里さんと、高等部三年生の青山直樹くんにお会いしました。顧問の綿井先生も交えて、たくさんの質問に答えていただきました。初めに手話のことも教えていただきました。日本

## ろう学校を訪問して

ろう学校演劇部の活動ぶりを、高田商業高校のスタッフが取材！

方はほとんどこちらを利用しているそうです。日本手話は日本語とは文法も違う、全く異なる言語で、同じ単語でも位置関係や表情などで意味が違ってくる手話です。そして、もう一つは日本語対応手話で、手話の単語を使用しますが、日本語通りに表現する手話です。ろう学校の生徒は色々な伝達手段を使ってコミュニケーションをとっています。この二つの表現の違いを知ってもらいたいということでした。

にしている、字幕パネルは役者と観客をつなぐ重要なパイプになっているとおっしゃっていました。そして、字幕パネルが今後の課題にもなっているそうです。パネルと役者との距離や手話と字幕とのテンポを合わせるのも大変で、日々練習なさっているそうです。明里さんが遭遇した問題点も教えてもらいました。手話で話をしていると、じろじろ見られて不快な思いをしたこと、電車のアナウンスが不便であることなど、今の世の中ではまだまださまざまな問題が残っているのだと実感させられました。また、お話の後で、学校の案内もしていたいただきました。遊具の「ひびきの塔」



## あなたの優しさが地球を救う！！

携帯電話での通話 1回分（約30円）	ビタミンA欠乏症や、はしかによる合併症を予防・治療するための、ビタミンAカプセル30錠。	1円×30錠 = 30円
ゲームセンターでの ゲーム1回（100円）	急性の下痢による脱水症から、子どもの命を守る経口補水塩14袋。安全な水と混ぜて使用する。	7円×14袋 = 98円
500mlジュース1本 （150円）	ポリオ経口ワクチン9回分。	16円×9個 = 144円
週刊誌1冊（230円）	1錠で4～5リットルの水を浄化できる浄化剤50錠。これにより、子どもたちが安全に水を飲むことができる。	63円（50錠） ×3個 = 189円
ブリクラ1回 （400円）	子ども8人分の鉛筆とノート。 （1人分=鉛筆1本とノート1冊として）	50円×8人 = 400円
ハンバーガー、ポテト、ドリンクのセット （約500円）	使い捨ての注射器（5ミリリットル）50本と、HIV・エイズ簡易診断キット2つ。 （18か月～大人まで使用可）	315円（注射器50本） 210円（診断キット2つ）
ボウリング1ゲーム （600円）	10リットルの水を運搬、貯水するための折りたたみ式の貯水容器3つ。	210円×3個 = 630円
映画鑑賞（1500円）	縄跳びの縄28本。	28本で1575円

（ユニセフ募金の取材：山辺高校スタッフ）

では、座った椅子から直接音を体で感じる体験をしました。最後に明里さんの演劇を目の前で見て衝撃を受けました。写真を撮ろうと思っていたのですが、シャッターを押すことを忘れてしまっただけです。音の無い中で、その劇の世界観や感情が一気に私の中に入ってきて驚きました。全身で演技をしている明里さんは、表情も次々に変化をさせていきました。とても、高校一年生とは思えない程の演技力で、魅了されました。今回の交流でたくさんこのことを学ぶことができました。この記事で皆さんにも興味を持ってもらえればと思っています。

#### 高校生の人権広報誌

“Freedom” 創刊第2号（2009年10月16日発行）

編集 “Freedom” 編集スタッフ

発行 奈良県高等学校人権教育研究会

〒630-8133 奈良市大安寺1-2-3-1

奈良県解放センター内

TEL 0742(62)5555 FAX 0742(62)5568

E-mail kodokyo@kcn.ne.jp

今回の“Freedom” 題字は、帝塚山高校スタッフでした。

ご感想や投稿は各校人権教育担当の先生または上記まで。

本誌の発行は、奈良県教育委員会の事業委託を受けています。